



三次の 重要文化財

第1集

考古資料・武具・石の造形物等・文字に関する文化財



重要文化財とは

建造物、絵画、彫刻、工芸品、書跡、^{てんせき}典籍、古文書その他の有形の文化財で日本の歴史上または芸術上価値の高いものや考古資料、その他の学術上価値の高い歴史資料のことで、有形文化財と呼ばれています。

重要文化財の種類

建造物 (神社仏閣や城郭、民家など)

美術工芸品 (絵画、彫刻、工芸品、書跡、典籍、古文書、考古資料、歴史資料など)

今回は、美術工芸品の中から、用途や特徴に分けてご紹介します。

考古資料

土器や石器など、昔の人が残した活動の跡が土の中に残されており、発掘したもので、昔の人の活動を追究することができる資料です。

矢谷古墳について知りたい人は、『三次市の文化財2「三次の古墳」』をみてね。



広島県矢谷古墳出土品 ^{やだに}重要文化財

指定年月日／平成6(1994)年6月28日

所在地／小田幸町(広島県立歴史民俗資料館)

史跡矢谷古墳から出土した特殊器台や壺を中心とする資料が、国の指定になっています。特に、特殊器台・壺は、岡山県を中心に広島県北部から山陰地方にかけての地域に分布し、大きさや模様が特徴的な土器で、弥生時代から古墳時代の葬送儀礼を知ることができる重要な資料です。

史跡寺町廃寺跡から出土した資料

日本有数の古代地方寺院である史跡寺町廃寺跡は、奈良時代の寺院で、平安時代初めの日本最古の仏教説話集『^に日本靈異記』に記載されている三谷寺といわれています。ここから土や金属で造られた仏像の頭が出土しています。



塑造仏頭 ^{そぞうぶつとう}三次市重要文化財

指定年月日／
昭和34(1959)年12月1日
所在地／向江田町



金銅仏頭 ^{こんどうぶつとう}三次市重要文化財

指定年月日／
昭和34(1959)年12月1日
所在地／向江田町

泥塔 ^{でいとう}三次市重要文化財

指定年月日／昭和41(1966)年6月15日
所在地／吉舎町吉舎(吉舎歴史民俗資料館)

粘土を型に入れ、つくりだした仏像で、高さ9.4cm、幅4.4cm、厚さ2.8cmです。室町時代のものと考えられます。



土師器・壺 ^{はじきつぼ}三次市重要文化財

指定年月日／昭和57(1982)年2月20日
所在地／布野町上布野(布野生涯学習センター)

古墳時代の土師器。大きさは高さ50cm、口径18cm、胴径38cm、福泉坊の上り口から出土しました。



石斧 ^{せきふ}三次市重要文化財

指定年月日／昭和59(1984)年11月20日 所在地/吉舎町矢野

安山岩製で、長さ17cm、厚さ4cmです。縄文時代のものと考えられています。

武器

なぎなた 銘 藤原輝広尾州

広島県重要文化財

指定年月日／昭和38(1963)年4月27日

所在地／吉舎町三玉〈非公開〉

江戸時代の広島^の刀工初代輝広^が作った刃の長さ51.7cmのなぎなたです。輝広は福島正則に従い尾張(愛知県)から移住したと言われ、その後広島藩を代表する刀工のひとりとなりました。輝広の作風や技術を知る重要な資料です。



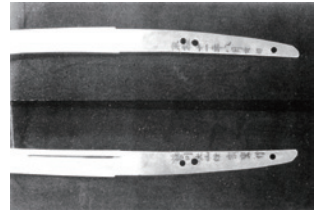
刀 銘 芸州大山住宗重作 永禄十一年八月吉日

広島県重要文化財

指定年月日／昭和45(1970)年1月30日

所在地／十日市町〈非公開〉

三代宗重の数少ない作品のひとつです。刃長70.3cm。宗重は中世の芸州刀工を代表する名工で、三代続いたとされますが、初代や二代の作で現存するものはなく、三代宗重の作もほとんどありません。



てっさび うるしぬり にじゅうはっけん にほう しろ そうふくりん あこだなり すじかぶとばち 鉄錆漆塗二十八間二方白総覆輪阿古陀形筋兜鉢

広島県重要文化財

指定年月日／昭和47(1972)年4月24日 所在地／十日市町〈非公開〉

この兜は、室町時代特有の形で、錆漆を厚く盛り上げる技法が使われています。後世に補われた部分はありますが、彫刻渡金とぎんは精巧でこの時代を代表する兜鉢です。

備後国山内首藤家に伝来したと伝えられ、天辺の座に定紋みつの三柏紋かしまんが浮彫されています。



きんぱくおし す が け ちゃいとおどし にまいどう くそく え ぼ し なりかぶと おきそで 金箔押素懸茶糸威二枚銅具足・鳥帽子形兜・置袖

三次市重要文化財

指定年月日／昭和39(1964)年3月30日

所在地／吉舎町吉舎(吉舎歴史民俗資料館)

天文9(1540)年に和智誠春が寄進したと伝わっています。

槍 銘 村正 三次市重要文化財

指定年月日／昭和41(1966)年6月15日

所在地／吉舎町敷地(吉舎歴史民俗資料館)

長さ10cm、9尺柄付の槍。文亀年間(1501~1503)に伊勢(三重県)の刀工である初代村正が製作したと伝わっています。

槍 銘 清廣 三次市重要文化財

指定年月日／昭和47(1972)年3月1日

所在地／吉舎町敷地(吉舎歴史民俗資料館)

吉舎町清綱において清廣が製作したもので、天保11(1840)年の銘があります。

石の造形物等

五輪塔

五輪塔は仏教の考え方で、宇宙を構成している要素を空・風・火・水・地とし、それぞれを宝珠・半月・三角・円・四角の5つの形で表した塔です。

石造五輪塔 広島県重要文化財

指定年月日／昭和36(1961)年4月18日 所在地／布野町上布野

鎌倉時代の元亨2年(1322)の刻銘があり、銘がある五輪塔の中では、広島県で最も古いとされています。

※この文化財の種類は建造物ですが、他の石塔と一緒に紹介します。



善逝寺東暉無縫塔 三次市重要文化財

指定年月日／昭和52(1977)年11月8日

所在地／吉舎町吉舎(善逝寺)

高さ112cmの善逝寺の第7世の大和尚の墓です。大和尚は永禄6(1563)年に亡くなりましたが、生前の天文9(1540)年に建てられました。



大慈寺に関する石造文化財

大慈寺は応永28(1421)年、宗綱を開祖として南天山城主第4代和智氏^{うじぎね}実によって創建され、以来、和智氏によって加護されてきました。

大慈寺開山宗綱無縫塔 三次市重要文化財

指定年月日／昭和39(1964)年3月30日

所在地／吉舎町吉舎(大慈寺)



塔の高さは145cmで永享11(1439)年に亡くなった宗綱の墓です。

和智豊広・和智豊郷法名刻印 宝篋印塔 三次市重要文化財

指定年月日／平成9(1997)年11月25日

所在地／吉舎町吉舎(大慈寺)



和智氏の法名が刻まれています。「恵仁」は第7代和智豊広。「善舜」は第8代和智豊郷で永禄4(1561)年の銘があります。

宝篋印塔

中世～近世に全国各地で信仰の塔や墓石として造られた石塔の一種です。下から基礎・塔身・笠・相輪の4つの部位で1つの塔になっています。

宝篋印塔 三次市重要文化財

指定年月日／昭和61(1986)年8月1日

所在地／三良坂町灰塚(福善寺)



境内には宝篋印塔が3基並んでいます。中央の塔の基礎には正平10(1355)年の銘があり、この年号は南朝の年号で、当時の三谿郡(三次市)が南朝の勢力にあったことが推定できます。左右の宝篋印塔は鎌倉様式です。

吉田寺跡の宝きょう印塔

三次市重要文化財

指定年月日／平成8(1996)年2月1日

所在地／甲奴町抜湯

積石塚の上に建てられています。石質は石灰岩です。高さは112cmで、基礎には文禄5(1596)年の銘があります。

せきぞうほうとう

石造宝塔

三次市重要文化財

指定年月日／昭和63(1988)年3月1日
所在地／甲奴町小童

高さ130cmの石造宝塔で、宝塔としては小さいものですが、礎石に天文9(1540)年の銘があります。



せきどう

石幢

三次市重要文化財

指定年月日／平成8(1996)年2月1日
所在地／甲奴町本郷(井堀会館)

高さ170cmで、天和3(1683)年の銘があります。古くは本郷矢原の清泰寺跡にありました。



旧藩時代の国境の碑

三次市重要文化財

指定年月日／昭和36(1961)年11月30日 所在地／布野町横谷

江戸時代に出雲国(島根県)と備後国(広島県)の国境標示として赤名峠にたてられた2基の石柱で、ともに高さは170cmで、1基には「従是南藝州領」「従是南備後国三次郡横谷村」、もう1基には「従是南広島領三次郡横谷村」と刻まれています。



手水鉢

手水鉢とは、神社仏閣に参拝する際に、口をすすぎ、身を清めるための水を確保するための器のことです。

手水鉢

三次市重要文化財

指定年月日／平成16(2004)年3月3日
所在地／布野町上布野(福泉坊)

「奉寄進手水鉢 両布野 貞享四丁卯(1687)年9月上旬 大城山 福泉坊」の銘があります。

知波夜比売神社の手水鉢

三次市重要文化財

指定年月日／平成16(2004)年3月3日
所在地／布野町下布野(知波夜比売神社)

正面に「奉寄進 貞享4(1687)年丁卯8月吉日 神主堀江筑前守」とともに阿弥陀如来を示す梵字「キリーク」が刻まれています。神仏習合の時代であったことが窺えます。



こま犬

こま犬の起源は、中国の古代に廟所の守護神として獅子が置かれたことにあるといわれています。その後、神社の社領や社殿の前に一対(一方が口を開け、一方が閉じる「阿吽」の形)でおかれているのが一般的です。

こま犬

三次市重要文化財

指定年月日／昭和34(1959)年12月1日 所在地／畠敷町(熊野神社)

木造の高さ60cmの像です。内側は空洞になっており、表面には金箔を施した跡があり、鎌倉時代に運慶がつくったと伝えられています。



こま犬

三次市重要文化財

指定年月日／昭和37(1962)年4月25日
所在地／粟屋町(鳴戸神社)

室町時代の作で漆を塗った上に金箔を施しており、彩色があります。

三吉安房守致高寄進の木製狛犬

三次市重要文化財

指定年月日／平成16(2004)年3月3日
所在地／布野町下布野(知波夜比売神社)

天文16(1647)年三吉安房守致高の寄進と伝えられています。三吉致高は三吉家の第13代当主です。



獅子頭

三次市重要文化財

指定年月日／昭和37(1962)年4月25日 所在地／粟屋町(鳴戸神社)

獅子舞に用いる木製の頭です。大きさは高さ18cm、長さ35cm、幅32cmの扁平な長方形に近い形をしています。木製の朱塗で、室町時代末期に作られたと伝わります。



文字に関する文化財

法華経版木

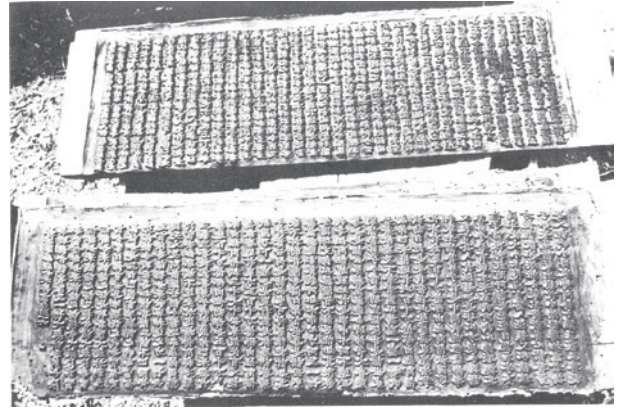
広島県重要文化財

指定年月日／昭和50(1975)年9月19日
所在地／吉舎町檜(吉舎歴史民俗資料館)

版木の材質は桜で、室町時代の作です。

永禄9年(1566)小早川隆景が仏通寺(三原市)に寄進したものが、後に、能引寺に移されたものとも考えられています。

文政年間(1818~1829)檜村国郡志書出帳に、この版木が村を出ると異変があると記してあり、古くからこの地域にあったと考えられます。



大般若経とは

大般若経は、唐の玄奘三蔵が龍朔3(663)年に漢訳を完成した經典で、600巻から成ります。除災や国家安寧に功德のある經典として広く受け入れられ、奈良時代から江戸時代まで、盛んに書写されました。

紙本墨書大般若経

広島県重要文化財

指定年月日／昭和28(1953)年4月3日 所在地／吉舎町吉舎(大慈寺)〈非公開〉

平安時代の保延4年(1138)に円教寺(兵庫県姫路市)の僧達が一斉に書写した平安写経の名品の一部です。もとは卷子装でしたが、現在は折本装になっています。600巻の内、25帖だけが伝わっています。

明応2年(1493)に大慈寺の近くにある吉舎村八幡宮に施入されたと記されています。



御霊神社蔵「大般若経二百巻」

三次市重要文化財

指定年月日／昭和52(1977)年4月25日
所在地／三和町羽出庭(御霊神社)

大きさ横11cm、縦26cm折本の写経です。大永3(1523)年に御霊神社の前身である長福禅寺に奉納されました。

下板木には、この般若経の功德のおかげで「はやり病」がないという民間伝承が残っています。



大般若経

三次市重要文化財

指定年月日／平成元(1989)年1月20日
所在地／作木町上作木(上作木八幡神社)

永久4年(1116年)に製作されました。八幡神社の前身、八幡宮(同所)の神殿屋根裏から発見された木片には永久4年2月に八幡宮へ大般若経一部が収まると記されています。



紺紙金字大般若波羅密多経 第九十一

三次市重要文化財

指定年月日／昭和56(1981)年3月27日
所在地／吉舎町敷地(大楽寺)

紺色の和紙に金泥で一字一字丁寧に書いてある経巻。

時代年代とも不明ですが、戦国時代に尼子一族の菩提寺であったことから尼子氏が寄進した可能性も考えられます。

檀田杵築神社般若経

三次市重要文化財

指定年月日／平成5(1993)年10月25日
所在地／君田町檀田(檀田神社)

檀田の杵築神社は君田の地に勧請された神社としては最古のものです。現在の社殿は、昭和12(1937)年10月21日に全焼しましたが、その際に残存したのが社僧沙弥西道外の奉納になる大般若経(135巻、文和2年外)です。

おうらいほん

往来本 三次市重要文化財

指定年月日／昭和37(1962)年4月25日

所在地／十日市東(三次市立図書館)

往来本とは、平安時代後期から明治初期にかけて寺子屋等で用いられた教科書の総称です。

618冊あり、中には、室町時代の代表的な教科書や教科書の編纂方法へんざんや内容の歴史を知ることができる貴重な資料もあります。



紙本墨書(万旧記) 三次市重要文化財

指定年月日／昭和39(1964)年3月30日

所在地／吉舎町敷地



敷地村の庄屋であった佐久間家が、安永5(1775)年から書き始め、明治16(1883)年まで歴代の当主が引継ぎ、書き残した4冊の記録です。当時起こった事や天災地変の様子などを知ることができる貴重な史料です。

頼杏坪祈晴告文 三次市重要文化財

指定年月日／昭和57(1982)年2月20日

所在地／布野町下布野(知波夜比売神社)

代官頼杏坪が、文化14(1817)年夏に雨が長く凶作を憂い晴れを祈願した時の文書です。

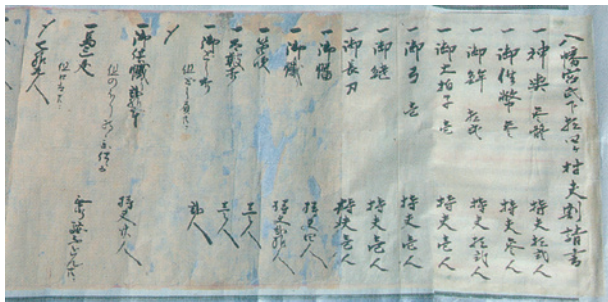


八幡宮氏下拾四ヶ村夫割請書 三次市重要文化財

指定年月日／昭和57(1982)年2月20日

所在地／布野町下布野(知波夜比売神社)

宝暦4(1754)年に高尾山八幡宮(現在同社祭神は知波夜比売神社に合祀)の祭札の際に14箇村の役割を書いた承諾書です。



小童須佐神社縁起 三次市重要文化財

指定年月日／昭和63(1988)年3月1日

所在地／甲奴町小童(須佐神社)



文明元(1469)年に製作されました。須佐神社の前身である小童祇園社の由来と祭札を記しています。

小童村正願寺(鑄鐘建立記) 三次市重要文化財

指定年月日／平成16(2004)年3月30日

所在地／甲奴町小童

文政3(1820)年、宇津戸(世羅町)の鑄物師丹下氏により鑄造された梵鐘で建立当時の様子が記述されています。梵鐘は現在、アメリカ合衆国ジョージア州アトランタ市のカーターセンターに「ヒロシマの鐘」として展示されています。

元禄十三年検知水帳 三次市重要文化財

指定年月日／昭和63(1988)年3月1日

所在地／甲奴町本郷(ジミーカーターシビックセンター)



元禄13(1700)年に幕府領となった旧福山藩領を検地した結果をまとめて記録したものです。

い の う も の の け ろ く 稲生物怪録

この作品は、江戸時代中期の三次を舞台に、主人公稲生平太郎をおどかしに魔王・物怪たちがやってくるといった、不思議な出来事をつづった物語です。物語には、多くの妖怪が現れ超自然の現象が描かれる一方で、実際に三次に存在する場所や、平太郎をはじめ当時三次に実在した人物が登場します。この作品は、伝えられる過程で、絵本や絵巻などさまざまな形態の作品を生み、それにつれて物語の内容自体も微妙に変化していきます。今日では、日本各地に広く伝えられていますが、いつ、だれが作成したものか、最初どのようなタイトルであったのかなど、いまだ明確でなく、謎の多い作品です。

稲生物怪録絵巻（堀田家本）

三次市重要文化財

指定年月日／平成7(1995)年4月21日
所在地／三次町(三次市歴史民俗資料館)

物語の中から地名や時代、主人公の姓など具体性を消し、昔話風の物語として作られています。この系統の絵巻はあまり現存していません。

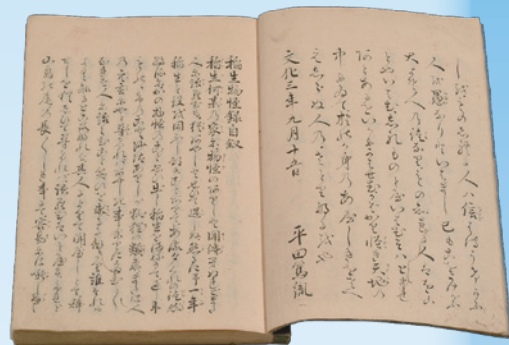


稲生物怪録（吉祥院本）

三次市重要文化財

指定年月日／平成7(1995)年4月21日
所在地／三次町(吉祥院)

平田篤胤^{あつたね}が関与した書写本に『稲生物怪録』のタイトルが用いられ、このタイトルの方が知られるようになります。



稲生物怪録絵巻（吉田家本）

三次市重要文化財

指定年月日／平成8(1996)年4月25日
所在地／三次町(三次市歴史民俗資料館)

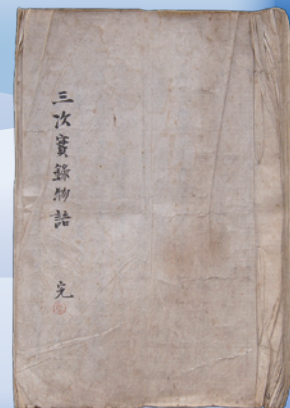
作品中にはタイトルを欠いていますが、箱書きには『稲生武太夫一代記』と記されています。

三次実録物語

三次市重要文化財

指定年月日／平成8(1996)年4月25日
所在地／三次町(三次市歴史民俗資料館)

体験談の形式で記された作品(稲生家の旧蔵本)。平太郎が「武太夫」と名乗った後年に自ら執筆した事実談とされてきましたが、実在しない弟が登場するなど、創作であることが判明しています。戦禍により1点しか現存していません。



発行年月日 令和2(2020)年3月

編集・発行 三次市教育委員会

〒728-8501 広島県三次市十日市中二丁目8番1号 TEL:0824-62-6191

資料・写真提供 広島県教育委員会

広島県立歴史民俗資料館

印刷 三星舎印刷有限公司